

令和4年度 学校評価 学校関係者評価書

学校名	三木市立三木小学校
-----	-----------

1 学校教育目標

自ら学び 心豊かで たくましい子の育成

2 本年度の重点目標

<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力の向上 ・特別支援教育の充実 ・安全・安心な教育環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな心の育成 ・「話せる英語教育」の推進 ・信頼される学校づくりの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・健やかな体の育成 ・心の通い合う生徒指導の充実 ・あいさつ、返事、掃除、時間の徹底
---	---	--

3 自己評価結果(達成状況)【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】

評価の観点	評価項目(取組内容)	取組(達成)の状況	評価	改善の方策
学習指導	・子どもの興味関心意欲を大切に授業づくり	算数科の学習を中心に「問い直し」を設けた学習を設定し、本時の学習に導入からまとめまで、本時の学習に沿った課題を展開に応じて設定し、児童の深い思考を促していくことで、基礎基本の定着を図る授業を心掛けている。また、タブレットのTeamsやSkymenuなどを学習の成果の発表や話し合いのツールとして使うことで情報共有をしやすくし、学習課題を明確にしている。また、PowerPointなどを活用し、学習の成果を異学年に発表する場も設定している。さらに、Qubenaの導入をうけて、算数科を中心にタブレット端末を使用した個別最適な学習を進め、理解できる児童は自分のレベルに合わせて学習を進め、理解が遅い児童には、教師がフォローに回ることができるようになっている。	A	本年度研究している発問や「問い直し」の研究をさらに進め、児童が積極的に活動できる授業を行い、学習意欲を高めていく。また、その中で「話す」ことだけでなく、「聞く」姿勢を大切に、クラス全体で学んでいくという姿勢を醸造していく。より効果的なタブレット端末を使った授業の展開に向け新しいアプリも積極的に取り入れ有効な活用方法を探っていく。
	・落ち着いたある学習環境づくりや言語環境の整備	朝の学習時間では、昨年より5分程度早め、基礎基本の学習に取り組んでいる。朝から落ち着いて学習に取り組むことで、1時間目の授業にスムーズに入れるよう配慮している。また、給食後の10分間程度の時間に集中して読書に取り組めるようになってきており、小説などの長文に挑戦している児童も増えてきている。放課後週1回1時間程度、基礎学力の定着を目的として、高学年の希望者に算数「がんばり学習タイム」を実施している。地域の指導者と学級担任とが密に連携を取り、個々に応じた課題を設定し取り組んでいる。児童も達成感をもって学習に取り組んでいる。	B	話しを聞き取ることが苦手な児童が増えてきている現状があり、友だちの話や相手の意見を聞き合い学び合う集団を醸造していく。タブレットを使った学習においては、各場面において明確な目標を提示し、プリント学習との併用も適宜行っていく。また、休み時間や放課後の時間を使って、個々の児童に応じた学習支援に引き続き取り組んでいく。今年度と同様に特別支援教育指導補助員や日本語指導支援員など各教職員と担任が密に情報共有し、児童の困り感に寄り添うきめ細やかな教育を行っていく。
	・学習習慣を徹底し、基礎・基本の学力の定着	朝の学習時間では、「コグトレ」で学習の前提となる認知能力を高め、その後のプリント学習で既習の学習の基礎基本の定着に取り組んでいる。螺旋的に何度も同じ問題に触れることで学習の定着を図っている。また、授業においては適宜、Qubenaを取り入れることで、学習でわかりづかったことを復習したり質問できる環境を整えている。今年度から高学年では教科担任制を取となり、算数では、常に複数で指導するなど児童の困り感に寄り添える体制を取っている。また、外国語も専科となり、ALTと協力しながら、既習の学習を活用した会話練習もたくさん取り入れている。ジョリーフォニックスも3年目に入り児童も発音とスペルの関連性を意識しながら取り組めるようになっている。さらに、ハロウィンなどの外国の行事にも積極的に取り入れ、学校全体で楽しむなど英語を身近に感じる環境が整ってきている。	B	今年度から取り組んでいる朝の学習については、学習内容を継続させていく。その際、めあてを明確にし、児童にも意識させながら取り組んでいきたい。ICT機器やQubenaなどより効果的に活用できるよう、各教員の実践を持ちより交流することによって授業の質を高めていきたい。外国語に関しては、専科の先生の授業を積極的に参観することで小学校の英語で求められているものを理解し、様々な学習場面で適宜導入し、児童が英語に触れられる場面を設けるようにしていく。
生活指導	・基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成	今年度も感染症対策を根本におきながら生活指導を行った。その中で、検温、マスク着用、手洗いといった習慣は、学校生活を送る中で定着している。「三木小っ子のきまり」の周知徹底については、今年度、家庭訪問の際に「三木小っ子のきまり」を家庭に直接配布した。家庭でも、きまりを正しく理解してもらい、学校と家庭が連携して、児童に周知徹底できるように取り組んだ。昨年度改善の方策を講じた「挨拶」については、児童会のあいさつ運動や教職員のおはよう指導などを継続して取り組んだが、今年度も改善に至っていないのが現状である。学校、地域で挨拶の習慣が定着していくような取組が必要である。	B	感染症対策については国の方針に沿って、検温、マスクの着用、手洗いの徹底を中心に来年度も継続して取り組む。挨拶については、児童会のあいさつ運動を継続して行う。また、呼びかける児童数を増やしたり、6年生だけでなく1～5年生にも挨拶を呼びかける側として参加させたりすることで幅を広げていきたい。また、クラスで挨拶の必要性、重要性を1年間通して意識させるため、児童会と連携し、代表委員会などを活用して挨拶を啓発していく。また、その際に、月の生活目標や三木小っ子のきまりの振り返りも行うことで、1年間を通しての定着を目指す。

4 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価

自己評価方法は適切である。 児童、保護者、教職員の3者にアンケート調査を実施し、その結果に基づいて総合的に評価が行われている。
--

5 評価の観点ごとの学校関係者評価

学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
<p>評価は概ね妥当である。</p> <p>○学習指導 外国語教育においては、「楽しくない」の評価が児童・保護者共に昨年度よりもさらに高くなっていることから、児童にとって学習内容が難しくなっていると感じる。英語嫌いになることが危惧される。専任の教師とALTが配置され、授業内容にも努力されていることと思う。ゲームや英訳した昔話の読み聞かせ等、外国語に親しみが持て、児童が楽しいと感じることができたり、もっと話してみたいと感じることができたりと授業づくりや環境づくりを願いたい。学習の習熟においては、児童によって個人差があると思われるが、確かな基礎学力の定着に向け、きめ細やかな指導を引き続き願いたい。</p> <p>○生活指導 「三木小っ子のきまり」の周知徹底に向けて、保護者へ家庭訪問で手渡し、説明したことはよい取組である。「三木小っ子のきまり」は社会の変化に合わせて見直しがされており、ネットモラルに関する点が追加された点は望ましい。挨拶や返事については、進んで挨拶ができるように保護者や地域と協力しながら引き続き指導に取り組んでいって欲しい。</p>

心の教育 (道徳教育・ 人権教育)	・道徳の時間の充実と実践化	他教科や本校の教育活動に合わせたカリキュラムの改善を行い、日々の学習活動に活かした。教材研究を行うと同時に評価についても研鑽を積んだ。	A	高学年になるにつれて自尊心が下がってきているので、自尊心を高めるような学習の進め方や指導方法などの研鑽を積んでいく。児童の実態に応じた授業づくりを進め、児童の内面に迫る授業づくりを行っていく。
	・自尊感情を高める人権教育の推進	昨年度同様、感染対策に留意しつつ可能な範囲で異学年交流を行った。各教科での学習の成果を他学級や他学年に発表する機会を設けることで、お互いのことを思いやる素地を養った。また、児童会活動の取り組みで、友達やクラスの良いところなどを手紙で書き、児童会役員が放送で紹介する「ともだちレター」の活動を行った。日々たくさんの「ともだちレター」が提出され、周りの人たちのことを認め合うクラス作り、学校作り役に役立った。	B	アンケートの「心の教育」の「自分のよいところと言える」の数値が年々低くなってきている。運動会・音楽会などの行事・活動を縮小して行ったものの、従来と比べ自分の頑張りが成果を他者に認めてもらう機会が少なかったことが要因の一つかと考えられる。そのため、次年度も感染対策に留意しつつ、活動の幅をより広げられるようにしていく。また、キャリア教育の取り組みを通して、自分の成長や長所を振り返れるよう指導に当たっていく。
	・一人一人が活かされる温かい学級・学校づくり	今年度は運動会や音楽会などの行事を学年ごとで行うなど規模を縮小して開催することができた。他学年と表現運動を見せ合う場を設けるなど、目標に向かって高めあっていく活動を取り入れた。また、日々の係活動や学級活動の中でも児童相互の交流の機会を意識的に設けていくことでお互いのことを思いやる集団作りにつながった。	A	アンケートの「心の教育」の「困っている友だちに声をかけたり、助けてあげたりしていますか。」の数値が、昨年と比べて低くなっている。コロナ禍で、縦割りでの活動や異学年との交流が減っていることが要因の一つと考えられるため、活動の機会を拡げていく。
特別支援教育	・児童の内面理解に基づいた支援	月1回の委員会を行い、全学年の担任、特別支援学級の担任及び養護教諭等を含めて、配慮の必要な児童についての情報共有、指導法を検討している。今年度は、児童一人一人の成長を図っていくために、全ての学級で活用できるような指導法、児童の実態把握に関する研修を行った。職員間で意見交流を図り、支援方法についての知識向上を目指している。	B	子どもたちが学校を楽しんでいる数値は昨年度より向上している。コロナが落ち着いたこともあるが、今後も子どもたちが楽しいと感じる行事や学習内容を、感染対策を取りながら、考えていくことが必要である。また、特別支援教育に関しても、具体的な指導事例を通じた研修を実施していく。さらに、職員間での交流を深める機会を確保していけるようにしていく。
	・共に育つ特別支援教育の充実	特別支援学級での活動の様子を見学し、授業の様子を見学したり、説明や質疑応答を行ったりして、児童理解を深めている。特別支援学級担任と交流学級担任が時間割についての打ち合わせを行い、特別支援学級の児童が交流できる授業内容を検討している。	B	今年度は特別支援学級担任が児童に話をしたり、児童が実際に学習している様子を見学したりするなど、障がいについて学ぶ授業を実施する機会が少なかった。来年度も引き続き継続、実施していき、障がいに対する児童の理解を深めていく。教職員の交流及び共同学習に対する数値が低下しているため、来年度はより充実した交流及び共同学習に関する研修を実施する。
安全教育	・安全指導や防災教育の充実	今年度は、2年間行うことができていなかった引き渡し訓練を行うことができた。学期ごとに避難訓練を実施し、学校全体で防災意識を高めるようにした。また、今年度は夏休みに職員研修を実施することで、より実践的な取り組みを行うことができた。定期的な取り組みとしては、各地区の危険箇所確認や月に2度登校時に通学路での安全指導を行った。	B	学校と地域・保護者が連携した取り組みが今年度以上に実施できるように計画し実行する。今年度実施し、課題が明確になった部分については、児童、教職員ともに防災や防犯等、安全に対する意識を高める。
保護者・地域との連携	・ふるさと学習の推進	今年度は、コロナ禍のため、保護者や地域の方々との連携交流が制限される中、地域のボランティアによる読み聞かせや花植え(1年生)、町探検(2年生)、金物体験や安全マップづくり(4年生)、味噌づくり体験(3年生)、田植え体験(5年生)、三木合戦や神話等の講話(6年生)などの活動を通して、児童の豊かな感性やふるさと三木を愛する心の育成を行った。	A	保護者・地域の方々との連携を大切に、生活科や総合的な学習の時間などを通して、「ふるさと三木」について学ぶ機会を設け、ふるさとを愛する心の育成に努める。地域の教育力を有効に活用するために、これまでの体験学習を継続して進めると共に、新規の人材開拓にも努め、教育活動の充実を一層図っていく。
	・通信・ホームページの充実	学習や学校生活での様々な活動場面や学校行事への取り組みの様子等を伝えるため、学校だよりや学年通信、学級通信の発行、Webページの更新に努めた。	B	学校行事やオープンスクール、授業参観日を通して、保護者や地域の方々に教育活動を公開するとともに、日々の児童の様子や教育活動等を積極的に学校だよりや学年通信、ホームページの更新により情報を発信し、地域に開かれた信頼される学校づくりを推進していく。

<p>○心の教育</p> <p>学校が、子どもたちのために頑張っていたに大変感謝している。アンケート結果で、「お子さんのいいところと言える」の項目において、保護者の評価が年々下がっている。先生は、子どもたちをよく見てくれているので、子どもが自分に自信を持っていないのは、保護者に問題があるのではないかと思う。子どもを学校任せにするのではなく、家庭がもっと頑張らないといけないと思う。コロナ禍の影響により、保護者が子どもとゆっくり話す時間が取れてないことも一つの要因になっているかもしれない。生活振り返りアンケートや音読等、子どもと関わる課題は学校から出してもらっているが、命の大切さについて話す機会につながるような課題を出すなど、保護者を巻き込んだ取組を考えていただくことを願う。</p> <p>昨年に引き続き、児童会の取組である「友だちレター」は、とても良い取組である。友だちやクラスの良いところを手紙で書き、放送で紹介することで、周りの人たちのことを認め合うクラスづくり・学校づくりに役立っている。意見交換により友だちの良さや自分の良さを認めることになり、自己肯定感の向上につながると思われる。今後も児童の自主性と合わせて継続していただきたい。</p>
<p>○特別支援教育</p> <p>在籍児童の増加により、一人一人に関わる指導の時間の検出にご苦労されていることと思う。特別支援学級の児童数の増加により、市内合同で行う行事等が減ってきているのが残念である。</p> <p>共生社会の実現に向けてインクルーシブ教育の重要性を思う。障がいのある子どもと障がいのない子どもが共に教育を受けることで「共生社会」の実現に貢献しようという考え方(インクルーシブ教育)に基づき保護者の合意理解のもと、それぞれに合った教育指導目標を明確に適切な指導と配慮を行っていただきたい。障がいの有無にかかわらず、児童一人一人に合った教育(インクルージョン)も願いたい。今後も、一人一人の個性を尊重した授業や対応を願う。</p> <p>保護者との情報共有や児童との向き合い方については、配慮いただいていると思われる。今後も引き続き願いたい。</p>
<p>○安全教育</p> <p>引き渡し訓練は大事なことであり、実施されたことはよかったと思う。実際の引き渡しの際は、保護者への迅速な連絡やスムーズな誘導、児童の引き渡し等、混乱なく対応いただけるようお願いしたい。</p> <p>南海トラフ地震に備えて、子どもたちに震災関連の資料(映像)を活用した疑似体験ができるような授業を実施しておくことも必要かと思う。</p>
<p>○保護者・地域との連携</p> <p>今年もコロナ禍のため活動が制限される中、各学年、保護者や地域の方々連携した様々な体験活動が実施され、わが町ふるさと三木を愛する心の育成を行えたことは大変良かったと思う。児童にとっては、通常の学習とは異なる発見や知識を得ることができるよい機会であるので、引き続き取組を進めていただきたい。</p> <p>今年はお話会が実施されてよかった。</p> <p>「先生と話がしやすい」の保護者のアンケート結果が年々下がってきているのが気になる。マスクの影響があるかもしれないが、保護者と教師の話す機会が増えて親しみやすい関係性ができていくことを願う。</p> <p>ホームページや学校通信等で児童の学校生活や学校行事の様子は、適宜発信されている。ホームページや通信等は、学校と保護者、地域のつながりの手段であるので、引き続き積極的な発信に関わっていただければと思う。</p>